

## 早稲田大学 社会科学部 国語 講評

### 〔総合分析〕

出題形式	マーク式
試験時間	60分（現代文1問、現古融合問題1問）
特徴・その他	（一）は現代文、（二）は現古融合問題。 （二）は全設問の半分以上が空欄補充問題。

### 〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
（一）	市村弘正の文章	例年より、やや高度な文章が出題された。設問も、例年より、ややレベルが高い。一文一文を丁寧に読解していく精読の力が試されている、日頃から、じっくり読みこんでいく力を養成していくことが重要であろう。	やや難
（二）	甲：『無名抄』 乙：馬場あき子の文章	本文中のポイントの部分が空欄問題になっていて、一つ一つを手早く処理することを求められている。空欄問題が苦手な受験生は、かなりやりにくかっただろうと思う。反対に、日頃から空欄問題を意識して準備していた受験生は、高得点をとったものと思われる。	標準

### 〔総合コメント〕

<p>今回は、例年よりも、得点のバラツキが出たものと思われる。二問とも日々の努力、そして実力が、点数にそのまま反映される良問であった。対策としては、単語力のアップ、読解力をじっくり身につけること、空欄補充問題を数多くやっていくことが大切であろう。</p>
---